

一	宮	市									
ウ	オ	ー	カ	ブ	ル	空	間	デ	ザ	イ	ン
プ	ロ	ジ	エ	ク	ト						

Ver.2021

一 宮 市

まちなかウォーカブルとは

道路、駅前広場、公園及び駅前ビル等の**都市アセットのリノベーション**
居心地が良い空間 = **歩きたくなるようなまちなか** を創出

人が主役となる豊かな日々の生活を実現するまちづくり



曜日や時間帯に応じて道路空間の使い方が変わる路側マネジメント

都市の多様性・生産性の向上による
まちのアップデート



人中心の空間として再生した、まちのメインストリート

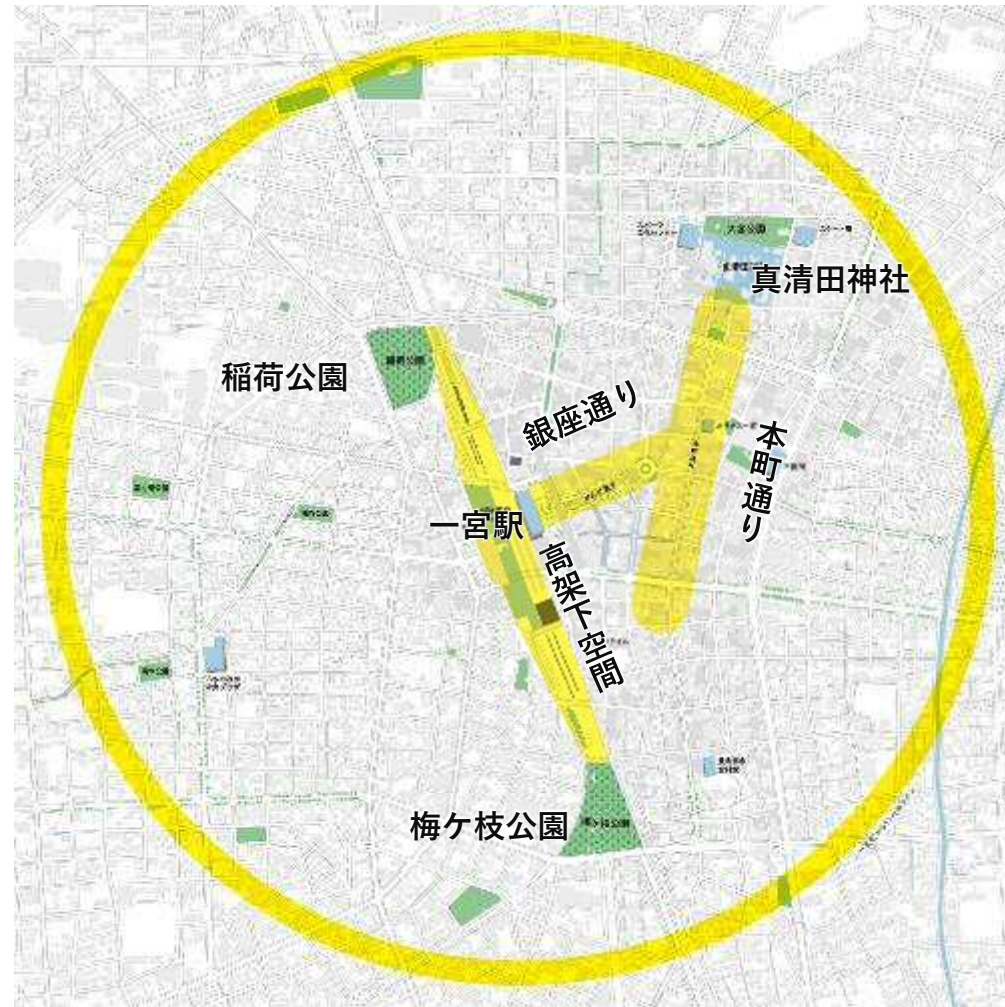
出典：国土交通省

プロジェクト推進のポイント

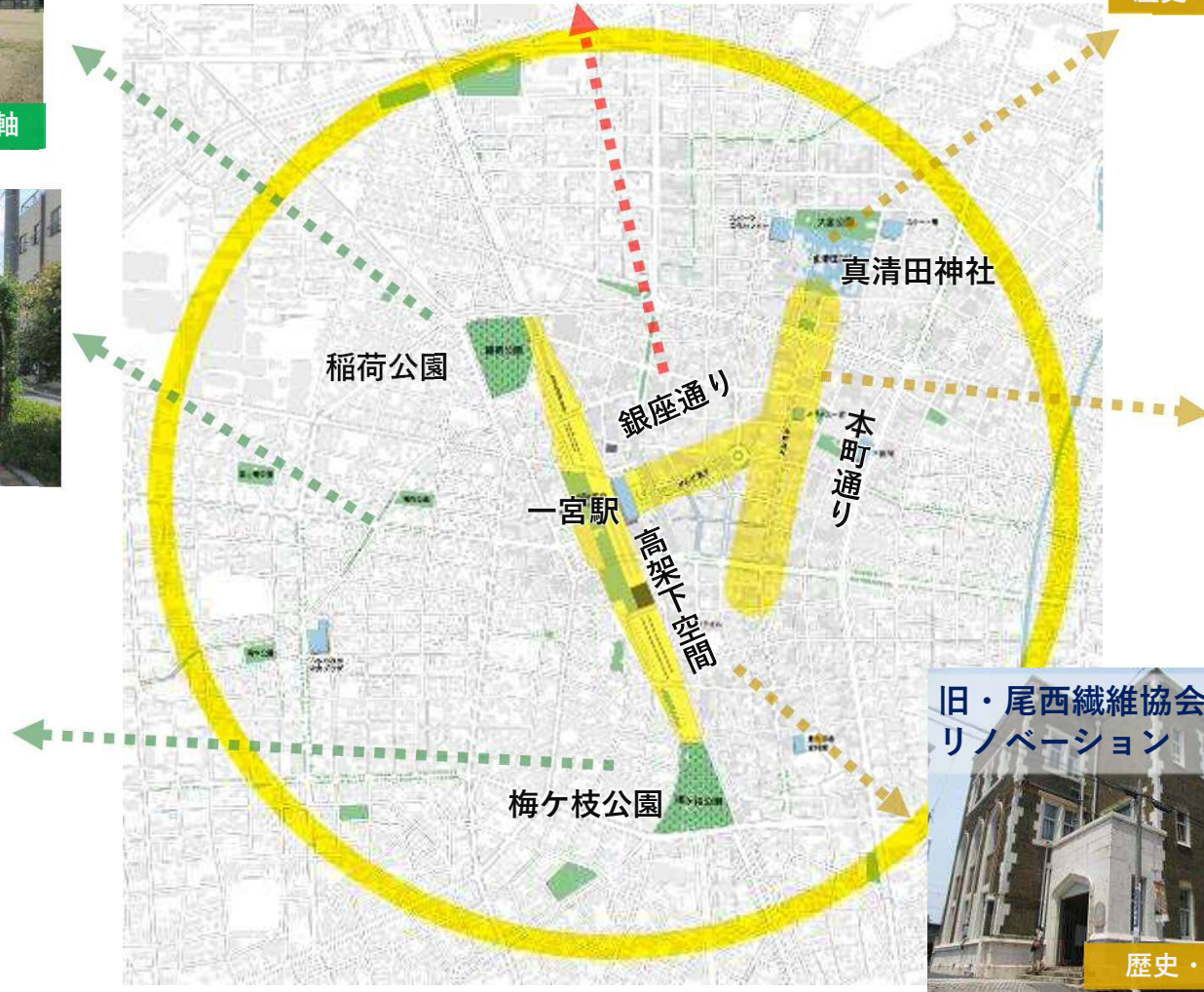
- ① **民と公の連携**により、賑わいのある空間・人・仕組みを一体的に作り上げる
- ② **暮らす人・訪れる人の目線**で
まちの安全安心や快適、新たな魅力の発見に応える
- ③ **歴史や文化**を次世代に引き継ぐ
- ④ **SDGs達成**に向けた持続可能なまちづくり
- ⑤ **ポストコロナ**に対応し新しい技術や価値観を積極的に取り入れる
- ⑥ **EBPM**に根差したプロジェクトの推進

対象エリア

- 一宮駅から**半径1km圏内**
- 真清田神社の参道に位置するアーケード商店街である**本町通り**、公園間を結ぶ**高架下空間**、駅から延びるシンボルロードである**銀座通り**の3つが主要動線



対象エリア



エリアの現況分析

① 一宮駅の立地とポテンシャル

名古屋駅及び岐阜駅から鉄道で10分一宮駅の乗降者数は約9万人/日

② 居住と開発

一宮駅1km圏には市内の約6.6%の人が居住しており**2000年以降横ばい**が続いている

③ 土地利用

一宮駅1km圏の用途は、約4割が商業地域、約3割が近隣商業地域と**商業系用途**に指定

④ 生活施設

駅前のデパートやi-ビル内の各種都市機能を中心に、**商業・文化・医療・子育て施設等**が立地

⑤ 公共空間

自動車中心で、特に一宮駅東側500m圏内では**土地の3分の1以上**を車道空間が占めている

⑥ 緑と公園

この地域の緑被率は4.8%と、市内で**最も低く緑がすくない**

⑦ 人流分析

一宮駅周辺の1時間以上の滞在人口は1日平均3.0~3.5万人で **駅から市役所にかけて多い**

⑧ 市民ニーズ

市政アンケートでは、「にぎわいを感じない」が **約8割**

⑨ にぎわいづくりの効果

まちの宮市などイベントを行うと **人手が増加** (R3社会実験では約2倍)

エリアの現況分析

エリア課題

- 一宮駅周辺は人口は微増傾向にあるものの、従業者の減少数が大きく、商業・業務機能の空洞化が進行しており、一宮市の顔となる中心市街地でありながら**日中の滞在人口が少なく魅力や賑わいが不足**
- 多くの乗降者数がある拠点駅が中心にありながら、駅利用や乗り継ぎのみに留まっている傾向が強く、**エリア全体に人の流れを生み出せていない**
- 平面駐車場など小規模な低未利用地、空き地や空き家も増加傾向にあり**都市のスポンジ化の進行**が懸念される
- 公共空間を利活用できる素地があることや真清田神社や大江川の桜などの多様な地域資源があるものの、**それらが個別分散化しているため包括的な活用ができてない**
- 多くの民間プレイヤーが活動を行っているが、個々に繋がりがないため**単発的イベントで終わっており持続性のある”まちづくり”まで至っていない**

プロジェクト構想の策定方針

策定目的

- 2021年の市制施行100周年や中核市、リニア整備により今以上に名古屋都市圏全体で都市機能集積が期待できることなど、**都市として自立し、アップデートできるまちへと転換するターニングポイント**を迎えている
- コロナ感染症拡大を契機に、名古屋への通勤者を中心に日中も市内やエリア内で過ごす人が増加する可能性も想定できる。このタイミングで、「**ポストコロナ**」の**新たな日常を発想し、安全で快適な新しいウォーカブルモデル**を構築する

**つながり・ひろがる・杜と人が織りなすウォーカブルシティへ
“活かすべきものを活かし、つなぎ、ひろげ、みんながまだ気づいていない方向へ”**

将来像

- **個別の空間資源や人の営みをつなぐことで新たな価値や動きを広げ、多様な人と場所が広がるウォーカブルシティを形成**
- **人が主役となることができ、誰もが暮らすだけでなく働ける・稼げるまちに転換し都市機能を引き込める素地として、一宮市の顔にふさわしい、人や企業に選ばれる”居心地の良い空間づくり 歩きたくなるようなまちなか”を実現する**

取り組みの展開方針

<目標>
**3つの軸の再定義で
 エリアの骨格をかたちづくる**

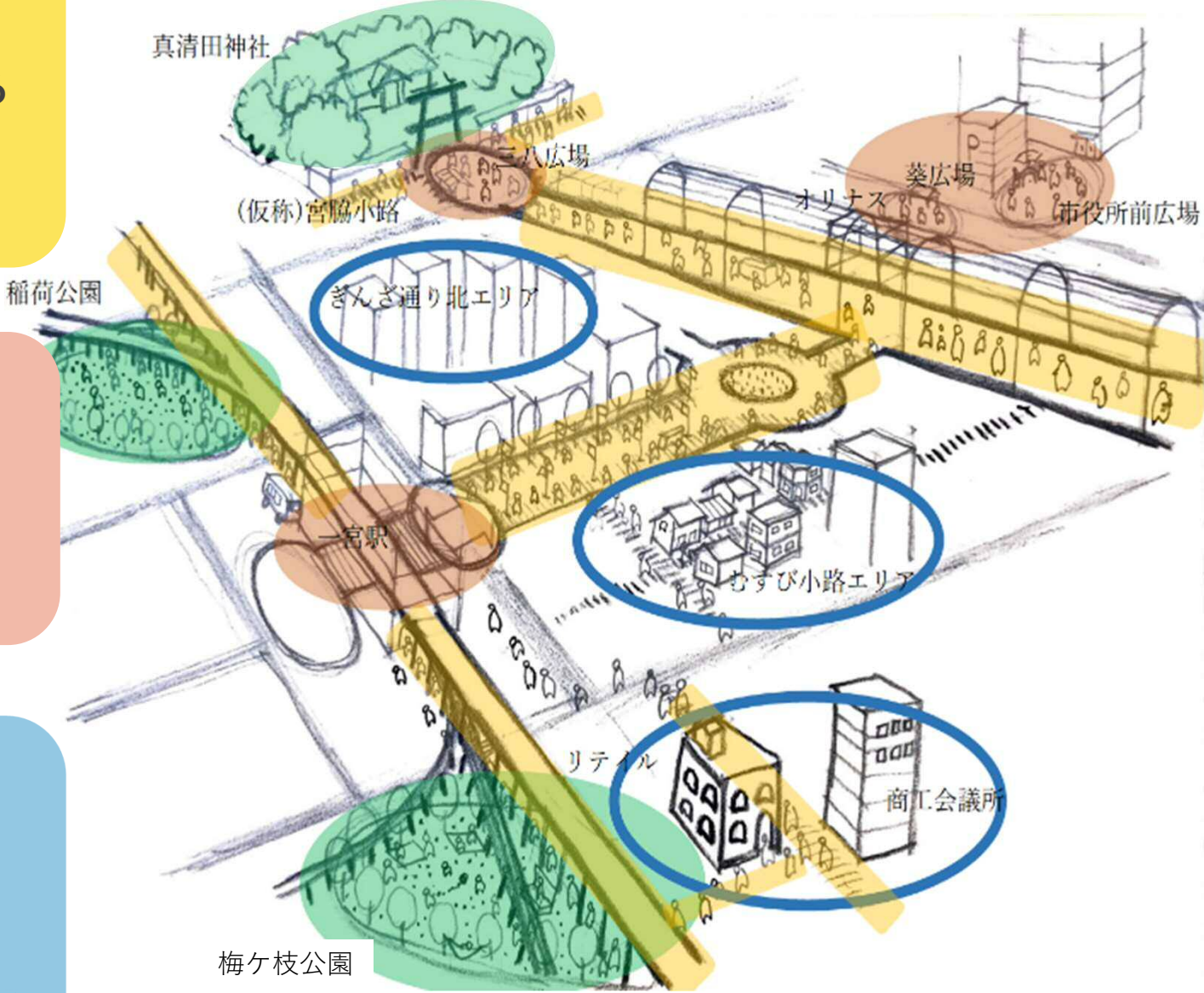
エリアの人の流れを支える
 3つの軸を明確に位置付け、
 ウォーカブルエリアの骨格をつくる

<取り組み>
**様々なスケールの取り組みで
 まちを面的につなげる**

3つの軸を中心にソフト・ハード、
 大小・官民の様々な取り組みで
 まちの面的な回遊性を高める

<展開>
**エリアリノベーションで
 魅力をひろげる**

3つの軸から周辺のエリアへ、
 空き家・路地活用から開発誘導まで
 将来的に魅力あるまちなみ形成を誘導する



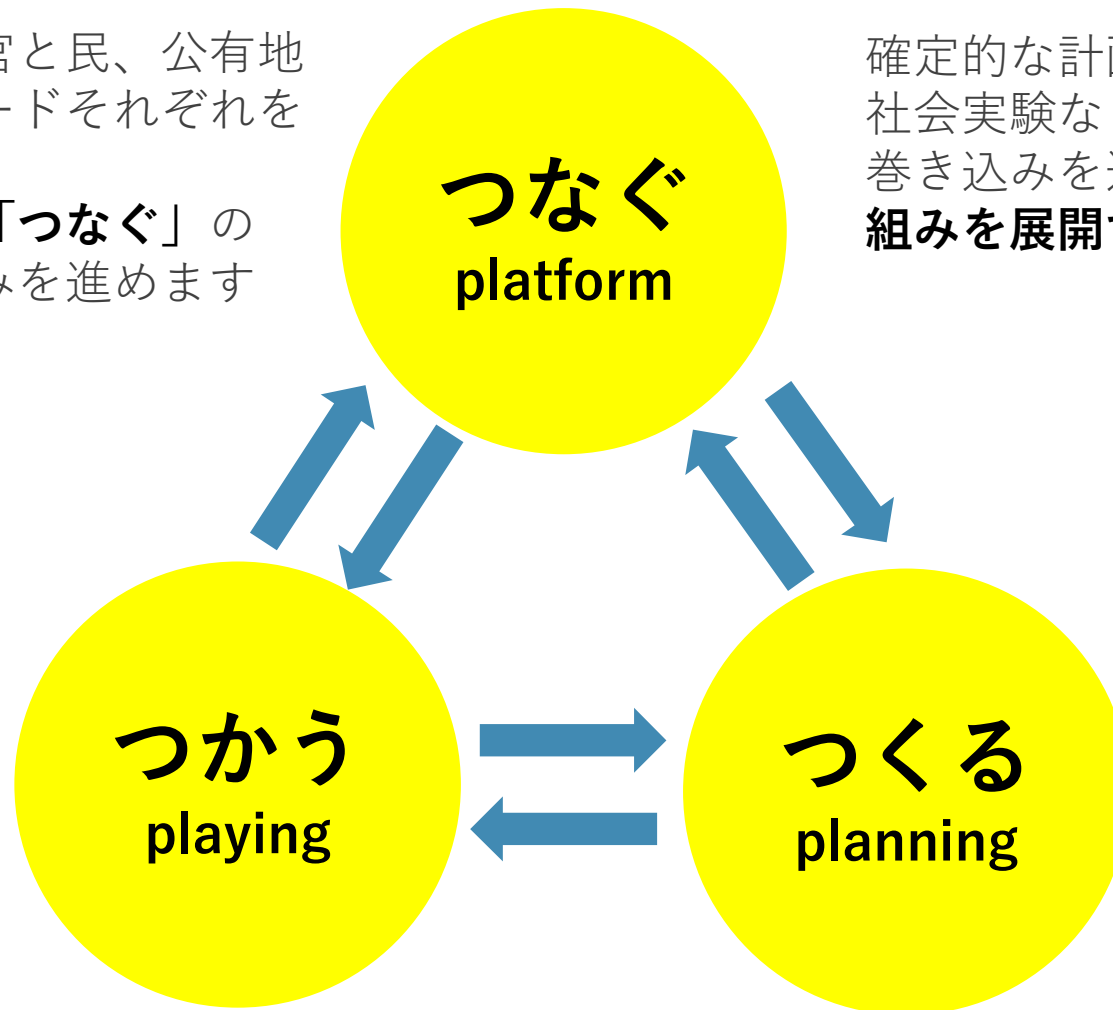
取り組みの枠組み

エリアを つなぐ
担い手を つなぐ
多世代を つなぐ

...

構想の実現に向けて、官と民、公有地と民有地、ソフトとハードそれぞれを織り交ぜながら、「つかう」「つくる」「つなぐ」の3つの枠組みで取り組みを進めます

確定的な計画を策定するのではなく、社会実験などの試行や実証、担い手の巻き込みを進めながら、**持続的に取り組みを展開する仕組み**を構築します



道路空間を つかう
公園広場を つかう
空地空家を つかう
...

銀座通りを つくる
本町通りを つくる
高架下を つくる
...

「つかう」取り組み

- エリアに眠る様々なポテンシャルを持った場所をより有効に活用することで、まちに多様な賑わいとアクティビティを生み出す取り組みを展開します
- それぞれの場所を管理する主体と協議をしながら、「つかいたい人」と「つかいたい場所」をつなぐ様々なサポートを取り組みの中で展開します



道路空間をつかう

- 歩道利活用促進や規制緩和に向けた社会実験
- 道路占用ルールの情報発信など、歩道活用の促進に向けた取り組みを展開します



公園広場をつかう

- 公園広場利活用の促進や規制緩和に向けた社会実験
- 占用窓口の一本化と情報提供など、公園広場活用の促進に向けた取り組みを展開します

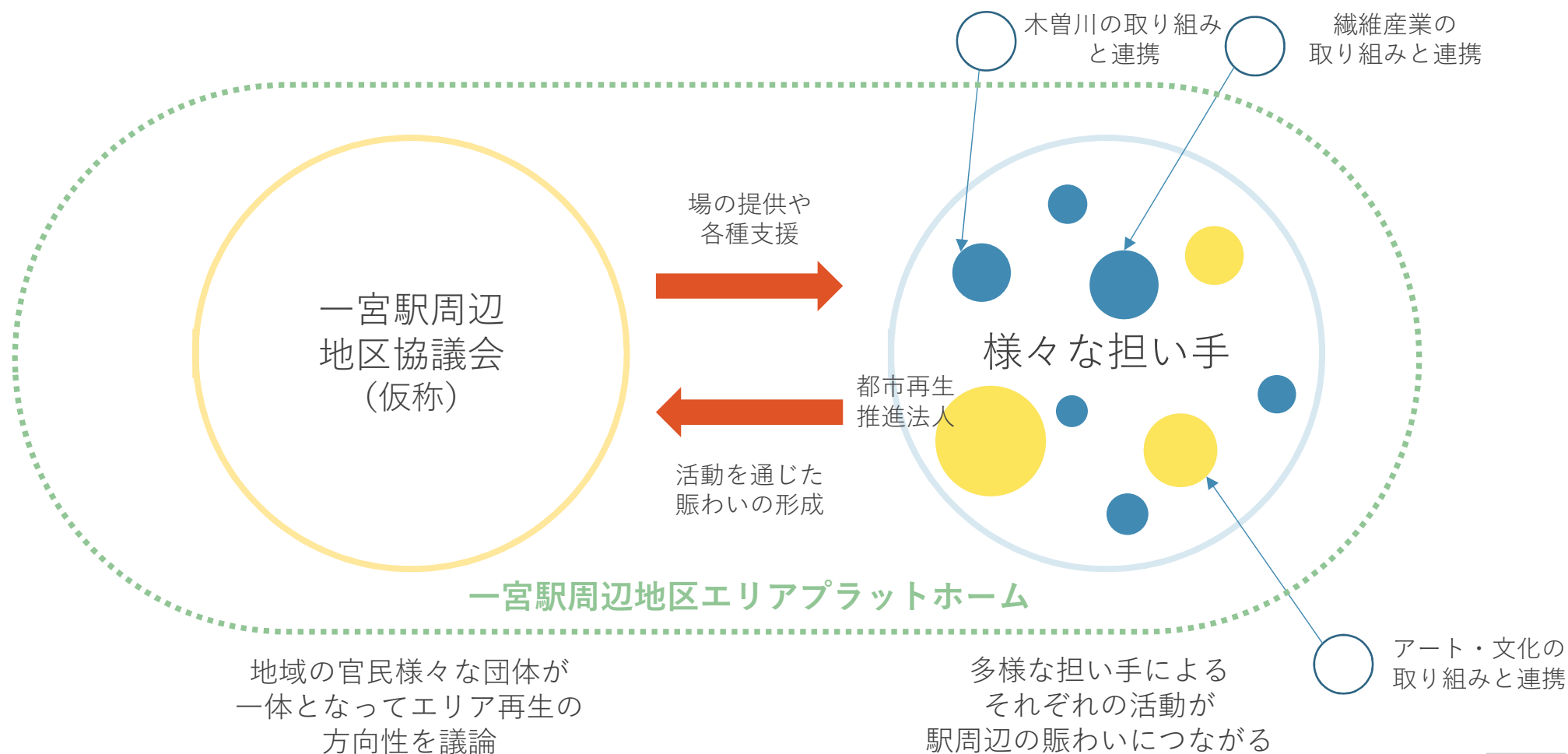


空地空家をつかう

- 空地空家活用に向けた支援
- モデルプロジェクトの創出
- 空き家に関する情報提供など、空地空家の促進に向けた取り組みを展開します

「つなぐ」取り組み

- これまでバラバラに活動してきたエリアの活動主体が一緒になってエリア再生の取り組みを推進できる**エリアプラットフォームの構築**を行います
- エリアプラットフォームがエリア再生に向けた取り組みを進めることで、一宮市全体で活動している多様な活動主体が、駅前での活動により新たな拠点とすることで、**駅と市全体を全体をつなぎ、相互に活性化する仕組みづくり**を行います



「つくる」取り組み

- エリアのこれからの中心となる3つの主要軸について、大小さまざまな改修や利活用の促進をはかり、**エリア全体の回遊性を高める環境づくり**を行います
- 「つくる」取り組みと合わせて、これまで以上に多様なアクティビティが生まれ、それぞれに新しい魅力を備えた**エリア創出と価値向上を目指します**

銀座通りをつくる

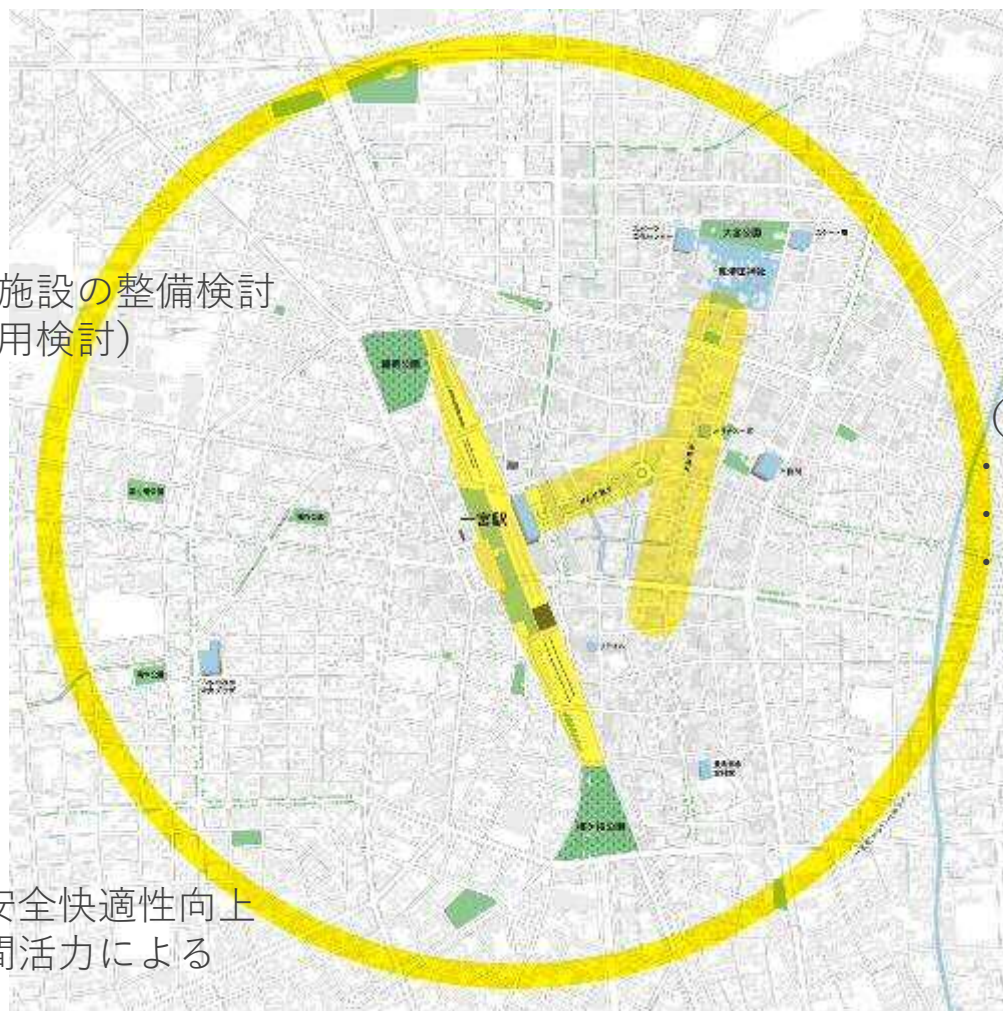
(例)

- 道路空間の再整備と高質化
- 民間活力を活用した賑わい施設の整備検討
(歩行者利便増進道路の適用検討)

高架下をつくる

(例)

- サイン・付属物改修による安全快適性向上
- 梅ヶ枝公園・稲荷公園の民間活力による滞在環境向上



本町通りをつくる

(例)

- 沿道の空店舗や空地の有効利用促進
- 隣接広場や道路の高質化や柔軟利用
- Wi-Fiやベンチなど滞在環境充実

プロジェクトスケジュール

- 社会実験を重ねながら実現性や継続性を検証し、具体的な取り組みへと展開

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度以降
エリアプラットホーム構築		銀座通り・本町通りを中心とする社会実験		エリアプラットホームによる自立・自走活動		
未来デザインビジョンに向けた社会実験						
未来デザインビジョン策定	地域での議論によるビジョン策定					
情報発信・シティプロモーション						
都市再生整備計画		都市再生整備計画策定		ウォークブル区域再整備		
				空き地利活用		
個別事業 * 想定		都市再生推進法人の指定、活動				
		空き家再生・活用				
		中心市街地活性化計画				